

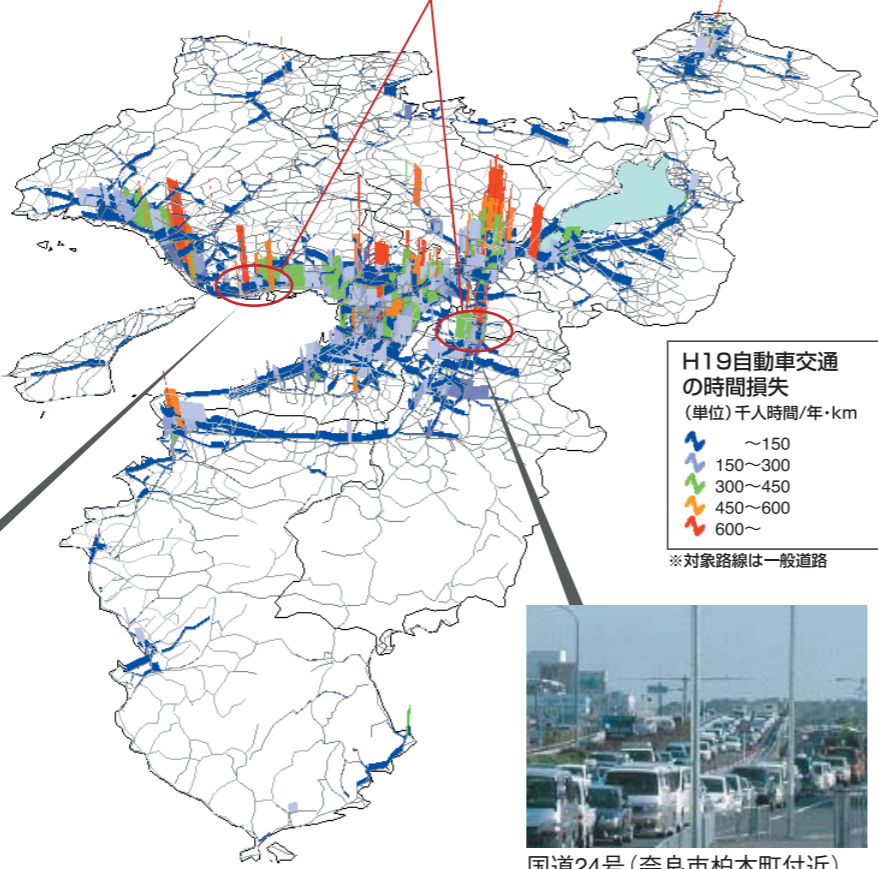
道路

道路ネットワークの整備

近畿圏の自動車交通の時間損失は、関東に続き全国でワースト2位となっています。特に、京阪神都市圏を中心に慢性的な渋滞が発生しています。

これらの交通渋滞は、時間損失による経済活動低下、沿道環境の悪化、渋滞を避ける車が生活道路に進入するなど課題の要因となっています。

道路ネットワークが繋がっていない所では著しい渋滞が発生しています



国道2号(神戸市垂水区付近)



国道24号(奈良市柏木町付近)

近畿圏の渋滞対策として、京奈和自動車道をはじめとする環状道路等の整備を推進しています。

京奈和自動車道は、平成22年度までに京都府域で17km、奈良県域で16km、和歌山県域で11kmが開通しており、残る区間の早期開通に向け、引き続き工事等を推進していきます。

近畿圏の環状道路ネットワーク

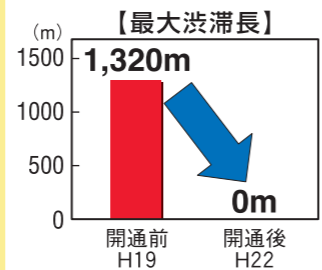


工事が進む京奈和自動車道(奈良県橿原市)

~第二京阪道路開通後の交通状況~

平成21年度末に全線開通した第二京阪道路により、国道1号の主要な交差点の渋滞が解消し、大阪~京都間の移動時間が短縮しました。

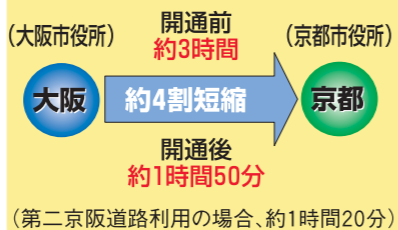
■国道1号中振南交差点の渋滞が解消



【通行状況の変化】



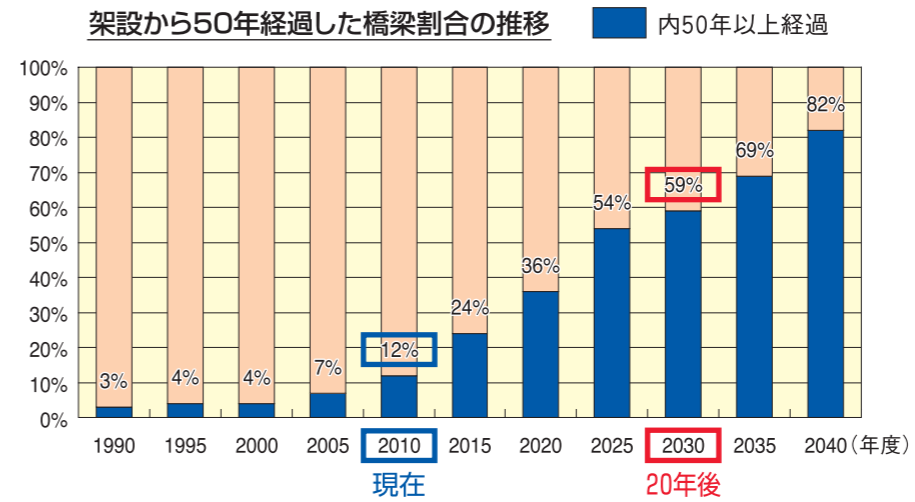
■大阪~京都間の移動時間が短縮



道路橋の保全に向けた取り組み

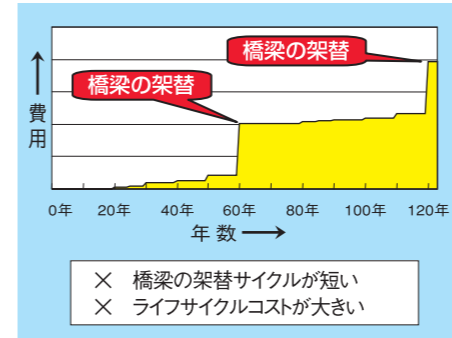
近畿地方の直轄国道において、建設後50年を超える橋梁数の割合は、20年後には現在の約1割から約6割まで急激に増加します。

これら橋梁の長寿命化を図りライフサイクルコストを軽減するため、これまでの「事後保全型」の維持管理から「予防保全型」の維持管理への転換を進めています。

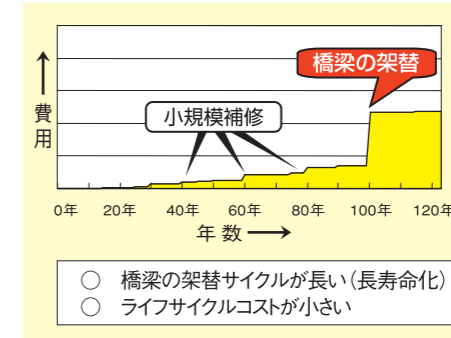


支柱の座屈(国道1号白川橋)

【事後保全型】



【予防保全型】



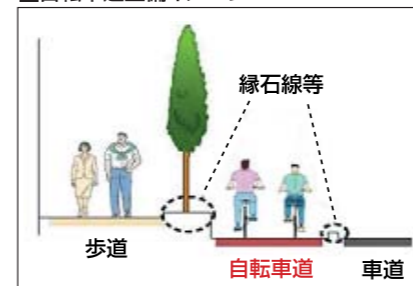
損傷がより深刻化する前の軽微なうちに対策を実施

自転車道、自転車専用通行帯の整備

近年、自転車は、環境負荷の低い交通手段として見直され、健康志向の高まりを背景に、その利用ニーズが高まっています。その一方で、自転車事故は近年増加傾向にあり、特に歩行者と自転車の交通事故が急増している状況にあります。

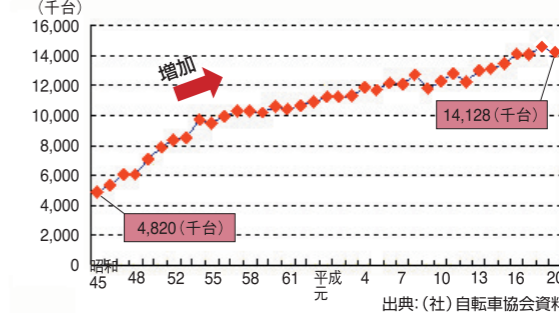
近畿管内の自転車通行環境整備モデル地区において自転車道又は自転車専用通行帯の設置を推進していきます。

■自転車道整備イメージ

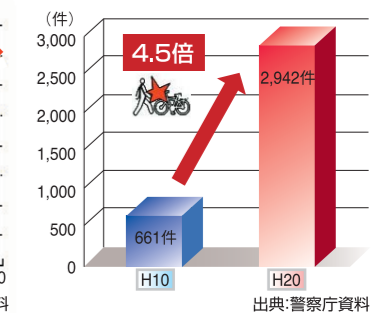


自転車道未整備の事例(歩行者と自転車が交錯)

■近畿圏における自転車保有台数の推移



■「人」対「自転車」事故は増加している



自転車道の整備事例

国道24号奈良市

